

2017.12.10 待降節第二主日

福音による解放者イエスの登場

マルコによる福音 1:1-8

神の子イエス・キリストの福音の初め。

預言者イザヤの書にこう書いてある。

「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、
あなたの道を準備させよう。

荒れ野で叫ぶ者の声とする。

『主の道を整え、

その道筋をまっすぐにせよ。』」

そのとおり、洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

説教

一人ひとりの心の中が変わらないと世界は変わらない。青年のころ、わたしはこう考えました。それからずいぶんと時が過ぎました。いったい人の心がそのように変わるのがいいのだろうと今も思いめぐらせています。きょうの福音箇所はこの問いかけへの解答のはじまりです。

ヨハネはユダヤ全土に向かって叫び声をあげます。

『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』

そしてその声は民衆にとどき、人々はヨルダン川に身を沈めて一人ひとりが自分自身を変えることをヨハネの導きにより実行しました。でもそれはヨハ

ネにとっての目的は道を整えることです。洗礼を受けた彼らに続けてメッセージを送ります。

わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。

自分自身をどう変えるのか、変えていくのか。変化のなかみは何なのか？それがあきらかになるのは「わたしよりも優れたお方」を待ちなさい、「その方は聖霊で洗礼をお授けになる」とバプテスマのヨハネは宣言します。

マルコ福音書が「神の子イエス・キリストの福音の初め」とはじまり、それに続いてヨハネのバプテスマ（洗礼）のようすが語られます。福音の内容をおさらいすれば、イザヤ書を引用してヨハネが荒野（あらの）で叫び、それに呼応して多くの民がヨルダン川に身を沈める。洗礼を受けた彼らに対してヨハネは「後からくる方」を待てと指示をした、となります。マルコはイエスの福音宣教はまずはヨハネの洗礼から始まるのだといっているようです。ご存知のとおりいまでは洗礼はキリスト教の入信儀礼となっています。また、教派によってそのやり方も解釈も多様となっています。マルコ福音書が「神の子イエス福音のはじめ」と明言し、福音のはじめとして語られるヨハネの洗礼は、いわゆる現在の「洗礼」式、入信儀礼とはずいぶんと意味合いが異なっています。

さて、アドベントはクリスマスの準備、4週間にわたってイエスの誕生を待つ備えの期間という解釈があり、おおくの人たちの習慣になっています。もちろんクリスマスが一番のプレゼントはイエス・キリストの誕生という「救いの始まり」です。

また、アドベントのもう一つの意味は、きょうの福音で説明されているように、キリストが来ること（イエスが厩でお生まれになるという意味ではなく）自分自身を変えようとしてヨハネの叫びに応じて「ヨルダン川に身を沈め」その覚悟、態度を示すことです。

いまの私たちの手元にあるマルコ福音書には2つのむすびがあります。長い結び、短い結びといわれています。その長いほうのむすびにはこうあります。

**それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を
宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を
受ける。信じる者には次のようなしるしが伴う。彼らはわたしの名によって悪霊を
追い出し、新しい言葉を語る。手で蛇をつかみ、また、毒を飲んでも決して害を受
けず、病人に手を置けば治る。」 16:15-18**

マルコ福音書の最後の個所をいきなり引用するのはあんまりいい趣味ではない（後書き、結末を最初に読むみたいで）ですが、このマルコの終わりがきょうの一章一節につながっているような気がするので紹介します。わたしはこのむすびに続けてはじめに戻り、もう一度マルコ福音書を読み始めてもいいんじゃないかと思っています。

「信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける」（新共同訳）はべつの訳（本田神父訳）では「信頼をもってあゆみを起こし、身を沈められる人は救われ、信頼してあゆみを起こさない人はほろびの宣告を受ける」とあります。本田神父は信じるという意味を「信じて行動を起こすこと」だと解釈しています。思って信じているだけでは変化はおきないからあたりまえのことを言っているのですが、ヨハネの叫びに応じてヨルダン川に集まる人々は実際に歩いて集まるわけですから、この観点からみれば事実をそのまま言っています。

クリスマスツリーの飾りつけや、愛する人へのプレゼントを何にしようと思案するだけでなく、ちょっと玄人（くろうと）っぽく「信頼をもってあゆみを起こし、身を沈められる」準備期間として、そして「後からくる優れた方」を待ち望む備えと時として、アドベントを過ごしてみましよう。
